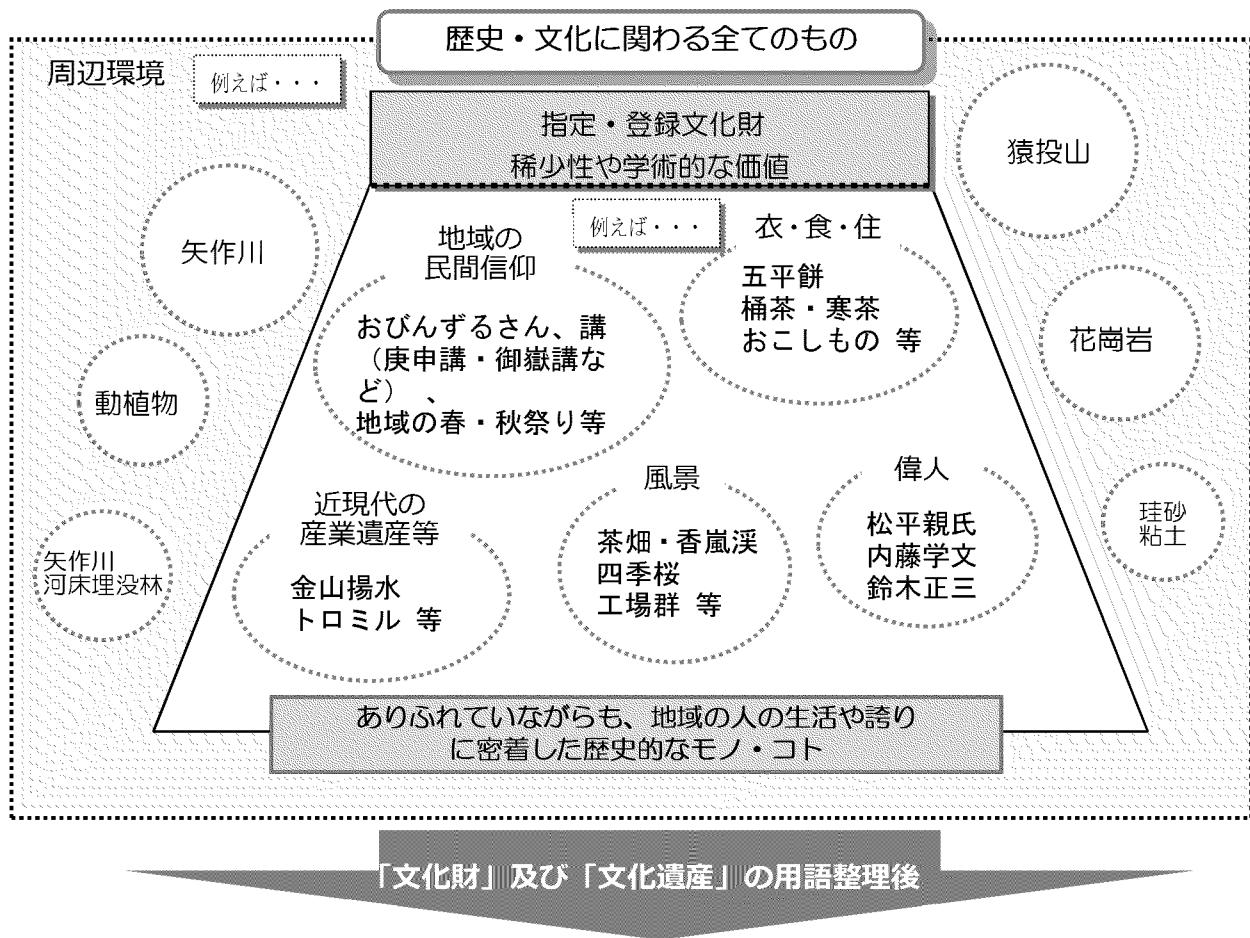


# 議題 1 「文化財」及び「文化遺産」の用語について

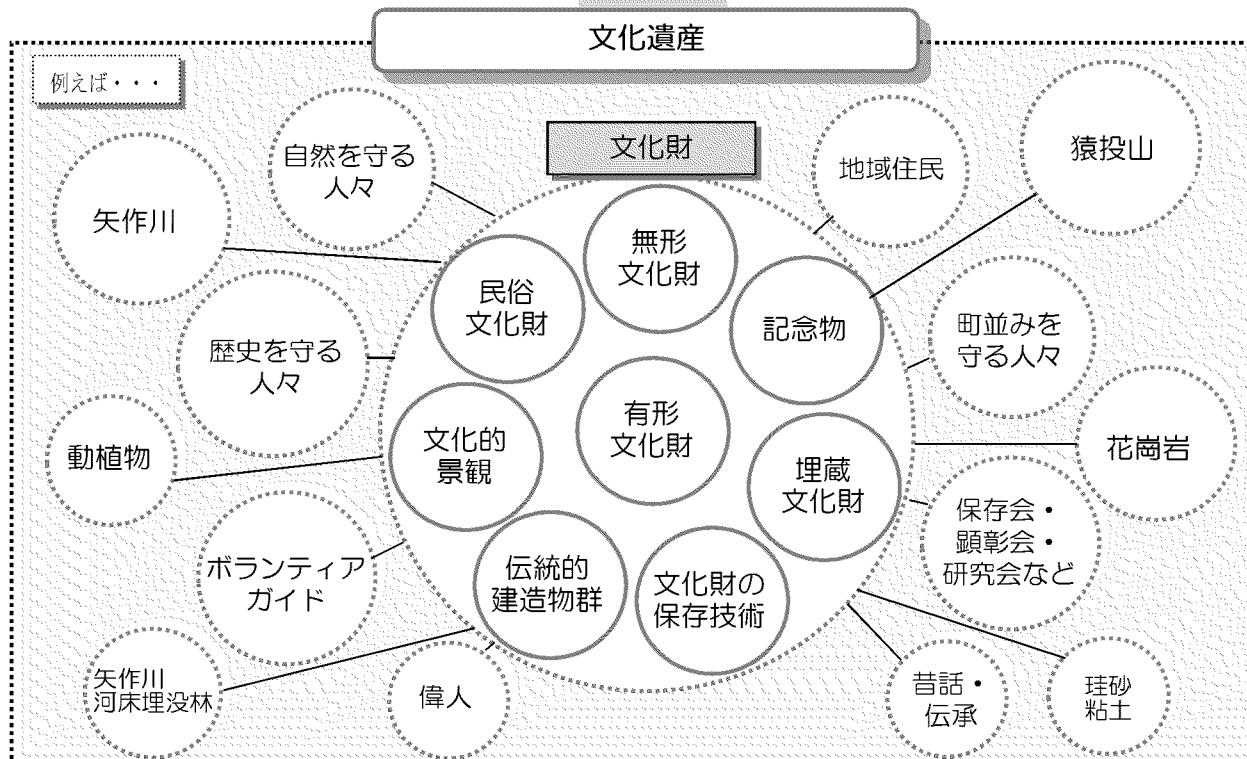
平成 29 年 11 月 24 日（金）  
豊田市歴史文化基本構想策定委員会  
【説明資料】 文化財課

豊田市の歴史文化を対象に、市内に存在する文化遺産とそれを取り巻く環境



市内に存在する文化財と、それと結びつく自然環境・社会環境

## =文化遺産



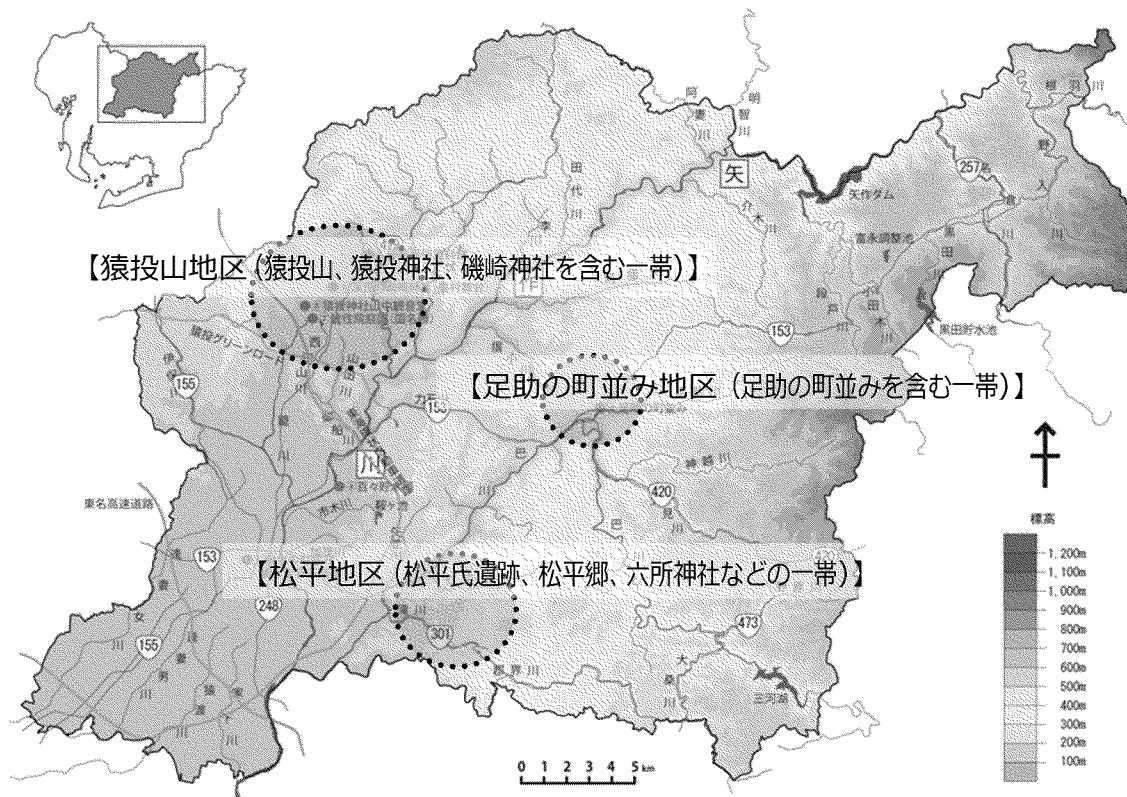
## 議題2 文化財群の候補について

【関連文化財群の候補（案）】

テーマ	関連文化財群の概要 (ストーリー)	関連文化財群を構成する 主な文化遺産	価値発信の 拠点施設	関連地区
①白鳳山勝景 図の世界 (神仏習合 の靈山)	古から山岳信仰の対象とされた神仏習合の靈山である猿投山。文化5年(1808)に白鳳山勝景図に描かれた猿投神社をはじめとする文化財群。 今日も時代を超えて人々の信仰をあつめ多くの来訪者を迎える文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猿投山、猿投山の球状花崗岩【国指定】、猿投山のカツラ【市指定】</li> <li>・舞木廃寺塔跡【国指定】、池田1号墳【県指定】、大碓命墓(陵墓)、旧龍生院庭園【国指定】、神郷下遺跡【市指定】、山中觀音堂、東の宮、西の宮、猿投神社、磯崎神社、武田道、龍性院跡、東圓坊跡</li> <li>・櫻鳥糸威鎧大袖付【国指定】、太刀銘行安【国指定】、黒漆太刀【国指定】、木造千手觀音立像【市指定】</li> <li>・白鳳山勝景図、猿投神社漢籍【国指定】、古文孝経【国指定】、正一位猿投大明神扁額【県指定】、革製竜頭馬面【県指定】、猿投神社文書【県指定】、猿投神社国書【県指定】</li> <li>・棒の手【県指定】、猿投祭り</li> </ul> <p>など</p>	・棒の手会館 ・(郷土資料館)	旧豊田市 (猿投地区)
②中馬の道 (街道と足助 の町並み)	モノ・ヒト・コトの交流の要としての街道と、中継点として繁栄を極めた足助の文化財群及び、時代と共に姿や役割を変えながらも、今日も繁栄を極めた町並みなどが時代を超えて継承されている文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今朝平遺跡【県指定】、宮ノ後遺跡、ソフサ遺跡、塙狭間古窯群</li> <li>・足助の町並み【国選定】、稻武・武節の町並み</li> <li>・中馬街道、伊勢神峠、地蔵峠、松路峠、馬宿跡(中乃屋・大和屋)</li> <li>・旧鈴木家住宅【国指定】、足助八幡宮本殿【国指定】、旧稻橋銀行足助支店社屋【県指定】、良屋岡本家住宅【市指定】、伊世賀美隧道【国登録】、飯盛城址【県指定】、香嵐溪、足助城、武節城址【市指定】、飯盛城址【県指定】、足助七城、馬頭観音、小馬寺、古橋懐古館</li> <li>・扁額鉄砲の打図板額【県指定】、千匹絵馬【市指定】、問屋関連資料(今井家ほか)</li> <li>・尹良親王伝説</li> <li>・足助八幡宮の山車【市指定】、足助祭り、足助春まつり、小田木人形座</li> </ul> <p>など</p>	・足助中馬館 ・足助資料館 ・旧鈴木家住宅 ・旭郷土館 ・稻武郷土館	足助地区 旭地区 稻武地区
③武家の惣領 "松平氏"	太平の世を築いた徳川家康のルーツである松平を中心とした文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松平氏遺跡(松平氏館跡、松平城跡、大給城跡、高月院)【国指定】、松平城山城跡【市指定】、松平東照宮、松平郷館、鷺鶴城跡、上野城跡、寺部城跡【市指定】、隣松寺【市指定】、天下峯、円川古戦場、古鼠古戦場</li> <li>・紙本著色織田信長像【国指定】、松平親氏坐像【市指定】、松平親氏銅像、木造徳川家康像【市指定】、絹本着色渡邊半蔵守綱像【県・市指定】、松平信博顕彰碑、権現祭、天下祭</li> </ul> <p>など</p>	・松平郷館 ・(郷土資料館)	旧豊田市 (松平地区など)
④とよたの 産業革命 (近代遺産等)	今日の礎となる近・現代の産業化を物語る文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養蚕、林業、炭焼き、ガラ紡、発電、お茶、近代窯業、トロミル、寿町のだるま窯【市指定】、近代の産業とくらし発見館【国登録】、喜楽亭【国登録】、足助資料館</li> <li>・明治用水頭首工、明治用水、枝下用水、百々貯木場【市指定】、金山揚水、自動車工場、鞍ヶ池記念館、力ローラ</li> <li>・モータリゼーション、企业文化</li> </ul> <p>など</p>	・近代の産業とくらし発見館 ・藤岡民俗資料館	旧豊田市 (挙母・松平・高橋・上郷・高岡地区) 足助地区、下山地区
⑤とよたのお茶	地域の暮らしに根付いた喫茶の習慣や製茶業を物語る文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧鈴木家住宅(茶室)【国指定】、又日亭、松近亭、毛受庵、都築家紫雲軒、旧龍生院新座敷</li> <li>・桶茶道具一式【市指定】、桶茶・寒茶・茶めし、高岡・下山地区などに広がる茶畠の景観、三河式てん茶乾燥機など</li> <li>・八橋壳茶翁、寺田伝兵衛家、渡辺規綱、山内純平、本多静雄</li> </ul> <p>など</p>	・(郷土資料館)	旧豊田市 (挙母・高橋・高岡地区) 足助・稻武・下山地区
⑥多くの人々 に愛され 親しまれ た風景	古くからの風景、新しい風景を合わせて、豊田市らしい、未来へ残していきたい風景を物語る文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上挙母駅、お釣山展望台から井郷地区を望む、岩倉神社歌舞伎公演、上原町の桜、明治緑道三連水車、矢作川の波岩と平戸橋と前田公園、浄水地区開拓記念碑、渡刈駅舎跡、豊田高専校並木、高美町の桜並木、永澤寺の参道、御乗替橋の桜並木、古瀬御城址公園、松生嶋、野見神社、竹村新池公園、吉原町の茶摘み</li> <li>・石畳ふれあい広場足湯、ふじの回廊、農村舞台(磯崎神社)</li> <li>・小原和紙力ソカジキ、川見四季桜の里、道慈山観音寺の仁王像【市指定】</li> <li>・足助祭りと古い町並み、香嵐溪の紅葉と巴川、マンリン小路とたんころりん</li> <li>・新緑の羽布ダム(三河湖)と香恋の館、晩秋の「保殿の七滝」</li> <li>・旭八幡の郷社の大祭、上中のしだれ桃、杉本の貞觀杉【国指定】</li> <li>・大井平公園、瑞龍寺しだれ桜【県指定】、面ノ木原生林、急峻な地形でありながら大切に管理された開墾地(棚田)</li> </ul> <p>など</p>	・(郷土資料館)	全地区
⑦近代を拓いた偉人たち	豊田市の発展は、人より先んじて新しい技術や考え方を広めた偉人たちによって、礎が築かれたといえる。近代の偉人や偉人にまつわる文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井上徳三郎、今井善六、宇都宮三郎、岸田吟香、田中正幅、田中長嶺、豊田喜一郎、内藤魯一、中村寿一、西澤貞蔵、藤井達吉、古橋原六郎、成瀬万平、前田栄次郎、牧野義雄、松平信博、村上忠順</li> <li>・旧井上家西洋館【国登録】、百々貯木場【市指定】、豊田喜一郎邸</li> <li>・明治用水頭首工、枝下用水第二樋門跡、前田公園、松平・下山地区の椎茸栽培、森下紙、大井平公園(人工林)、古橋懐古館</li> <li>・顯彰碑</li> </ul> <p>など</p>	・近代の産業とくらし発見館 ・民芸館 ・松平郷館	全地区
⑧とよたの芸能と農村舞台	市内には、地元の人々が歌舞伎をはじめとする芸能を観たり、演じたりした舞台が多く分布している。神社の一角で奉納する形として行われた歌舞伎も存在したが、その他にも、現在舞台や神社で奉納されている様々な芸能が存在し、人々の楽しみとなっていた。市域の農村舞台をはじめ、歌舞伎や芸能が盛んであったことがうかがえる文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市域の農村舞台、歌舞伎万人講石碑(藤岡・旭)</li> <li>・歌舞伎伝承団体(石野・藤岡・小原・旭・萩野子供歌舞伎)、三河万歳(西山・下山・東保見・稻武)、三番叟(羽布町)、小田木人形座(小田木町)、神子舞、囃子</li> <li>・子守明神祭礼絵巻(山車狂言の記録)、足助祭り(山車狂言の記録)</li> <li>・土人形(歌舞伎)、歌舞伎の引幕</li> </ul> <p>など</p>	・歌舞伎伝承館 ・(郷土資料館)	全地区
⑨くらしを育んだ地域の信仰と祭礼	人々は、古くから農作物や暮らしの豊穣を願い、様々な形で感謝や祈りを表現してきた。形をかえつつも、現在まで伝えられてきた地域の信仰や祭礼を物語る文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今朝平遺跡【県指定】、今朝平遺跡出土土偶【市指定】、手呂の銅鐸【県指定】</li> <li>・綾度の夜念佛と盆踊り【国指定】、坪崎の火鎮神事【県指定】、銭太鼓【県指定】、棒の手【県指定】、古瀬御ばやし【市指定】、丹波垣内流打ちばやし【市指定】、阿藏念佛踊り【市指定】、黒坂の祭り囃子【市指定】、大沼狂樂【市指定】</li> <li>・市内の春・秋祭り・長興寺絵画群</li> <li>・秋葉講、庚申講、御靈講</li> </ul> <p>など</p>	・棒の手会館 ・足助資料館 ・旭郷土館 ・郷土資料館	全地区
⑩矢作川と 都市の発展	矢作川の流れと共に発展してきた都市としての歴史を物語る文化財群。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢作川河床埋没林、曾根遺跡、曾根遺跡出土遺物【市指定】、猿投神社関係</li> <li>・長興寺、金谷城跡、下江湊(しおのごうみなど)、挙母城(櫓城)隅櫓跡【市指定】、七州城大手門跡、挙母城(七州城)隅櫓跡【市指定】、樹木の町並み、寺部の町並み</li> <li>・築魚・鮎釣り、勘八峠、温泉、筏流し、明治用水、枝下用水、土場跡、渡し場跡</li> <li>・長興寺の絵画群、七州城図及び図説【市指定】、縞帳</li> <li>・商品流通(味噌・酒・塩など)・水神祭り(藤沢町)、挙母祭り</li> </ul> <p>など</p>	・郷土資料館	全地区

## 議題3 保存活用区域の示し方について

【保存活用区域の展開イメージ（案）】



文化遺産の公開と連動した環境・施設整備や情報提供・案内等に係るサービスの充実を検討する。

### 将来的な展開例

#### ◆往時の歴史を知り、体感できる環境の整備

- 区域の文化遺産の保護や活用の担い手となる人々が地域内外に存在し、誇りと愛着をもって多くの人に発信することができるよう、人や団体の育成や仕組みづくりを推進する。
- 地域のマップ作成や、案内看板設置、SNSなどによる情報発信等、区域一体を散策できるルート案内を整備し、効果的な情報発信を推進する。
- 区域の文化遺産の発信拠点施設としての、地域・個別資料館の施設機能について、再整備を行う。

**★一人でも多くの市内外の人々の目に触れ、歴史文化への理解を深めて  
もらえるような仕掛けを検討していく。**

## 【保存活用の方針(平成28年度案)(抜粋)】

**1 文化遺産及びその情報を蓄積し発信するための取組みを推進する。**

- 文化遺産の情報や資料のデジタル化(画像・映像)とデータベース化を推進し、それを蓄積する基盤を整備する。
- 構想策定後も、滅失を免れない場合の緊急的な記録保存のみならず、継続的に文化遺産の調査を実施する。また、継続的に調査を実施するための仕組みを構築する。
- 文化遺産に関する資料収集や収蔵方針を定める。

**2 文化遺産を市民に身近な存在にしていく取組みや、市民が文化財保護と活用に参加できる取組みを推進する。**

- 郷土学習スクールサポートの題材に関連文化財群(ストーリー)を活用することで、文化遺産を身近に感じてもらい、文化遺産保護の気運を高める。
- 市民が保護の取組みや活用の担い手となり、自ら推薦し認定されたものを「(仮称)とよた市民遺産」と位置づけ、文化遺産保護の意識を高める。
- 市内各地区や市外へのつながりを有する文化財群(例:「塩の道」「南朝伝説」「農村舞台」「岸田吟香」等)については、その文化遺産を有する地区や他自治体間の交流・連携を促進する「(仮称)歴史文化協定」制度を検討する。

**3 文化遺産の保護と活用を強化し、次世代へ継承させていくための取組みを推進する。**

- 文化遺産の価値を情報発信し、資源を蓄積する拠点である博物館の整備と、地域資料館・個別資料館の再構築を進める。
- インターピリター(解説者・仲介者)としてのとよた歴史マイスターを養成する。
- 文化財の防災・防犯について、市民と共に連携しながら進める防災計画を策定する。

## 【委員会での主な意見】

- ・文化財・文化遺産がどのような状態で、どうあるのかを調べ、必要不可欠なコアなものが何かを把握し、そうでないものについては、ただちにそれを知っている担い手たちの声を聞き取りして、なぜここにあるのか様々な情報(写真・映像・音声等)を残す。そして、それをアーカイブ化して今後の豊田市のまちづくりに活かしていくことが必要。
- ・文化を担える人材が減っていくなかで、文化財がなくなっていくという話も時々出ている。構想の中にアーカイブ化など記録についても記載していただいたらよい。
- ・指定や登録にならない文化財には行政は補助金が出せないので、独自のカテゴリーを作つてみてはどうか。
- ・文化財・文化遺産の活用は、観光とも関連する。また、交通アクセスの情報は重要であり、そのあたりを大きな方向性として書いて欲しい。
- ・文化財も観光を利用して周知していくことが重要。
- ・車だけでなく、今の豊田市に誇りを持ってもらえるような動きとして、外から評価をもらうと地域の気運も高まることがある。観光分野では「磨き上げる」というが、今のままでは誰も知らないことを、織田信長像の話などでブランディングし、イメージを明確にすることによって、「豊田市は歴史文化があるんだ。すごいね。」という気運が一つ高まると思う。
- ・博学連携で、小中学校の児童・生徒が豊田市の歴史に興味を持つような勉強をして、豊田市ってすごい、と思った子どもたちが、大人になった時に文化財や文化遺産を支える担い手になると思う。
- ・保存だけではなく、活用があつてはじめて、地元が元気になり、文化財・文化遺産が守られていくのではないか。
- ・行政と応援団がお互いに足並みをそろえていくことは大事なこと。
- ・歴史を事象の穴埋めではなく流れとしてとらえる必要がある。(長興寺の信長像など)
- ・住民に身近な文化遺産に気づいてもらい、一步踏み出してもらうためには、イメージ作りと体制づくりが必要。イメージ作りのよい方法としては、伝承や昔話を組み合わせることが有効なのではないか。

## 【保存活用の方針(改定案)】

**1 文化遺産及びその情報を蓄積し発信するための取組みを推進する。**

- 文化遺産の情報や資料のデジタル化(画像・映像)とデータベース化を推進し、アーカイブ化して公開・活用できる基盤を整備する。
- 滅失を免れない場合の緊急的な記録保存のみならず、継続的に文化遺産の調査を実施する。また、継続的に調査を実施するための仕組みを構築する。
- 文化遺産に関する資料収集や収蔵方針を定める。

## 【将来的な展開例】

- 文化遺産を紹介し、その位置情報や活用状況等の情報を「とよたiマップ」などで公開する。
- 文化遺産の情報を基に、AR(拡張現実)技術を用いたスマートフォンのアプリの開発や、「Ha:mo」などを活用した新しい情報発信を展開する。

**2 市内外へ文化遺産をより魅力的に発信するため、観光分野との連携を推進する。**

- 市内外の人々が文化遺産を知ることができるように、観光分野と連携した魅力発信を推進する。

## 【将来的な展開例】

- 文化遺産を身近に感じられるイベントや体験プログラムを開催する(歴史文化観光の充実)。
- 文化遺産をより効果的に情報発信し、魅力を多くの人に伝えることを目的とした「(仮称)歴史文化協定」制度を検討する(地域間・団体間連携の促進)。

**3 市民が文化遺産の保護・活用に参加し、次世代へ継承させていくための取組みを推進する。**

- 郷土学習スクールサポートの題材に関連文化財群とそのストーリーを活用することで、文化遺産を身近に感じてもらい、文化遺産保護の気運を高める。
- 文化遺産の担い手の把握と、次世代へと継承していく人材の開拓を推進する。
- 文化遺産の価値を情報発信し、資源を蓄積する拠点である新博物館の整備と、地域資料館・個別資料館の再構築を進める。
- 日常的な防災・防犯意識を高める。

## 【将来的な展開例】

- 次世代へと活動をつなげるため、(仮称)子ども歴史マイスターの養成を検討し、文化遺産保護や保存技術継承の次世代の担い手を育成する。
- 市民が文化遺産に親しみ、誇りをもって多くの人に説明・紹介できる機会を創出する(ガイドボランティア活動等の充実)。
- 文化遺産を理解し、保護や活用の担い手となるとよた歴史マイスターなどの人や団体の育成を行う。
- 市民が保護の取組みや活用の担い手となり、自ら推薦し認定されたものを「(仮称)とよた市民文化遺産」と位置づけ、文化遺産保護の意識を高める。
- 新博物館と地域・個別資料館が相互に連携を図ることによって、地域の文化遺産が見直されるような展示や企画を展開する。
- 文化財の防災・防犯について、市民と共に連携しながら進める防災計画を策定する。